

超高耐候性・低VOC・水性反応硬化形樹脂塗料

# ユニシリーズ

JIS K 5660 つや有合成樹脂エマルジョンペイント適合品

水性ウレタンユニ

水性シリコンユニ

## 水系

- 低VOC・低臭
- 低汚染性
- 透湿性
- 防かび性
- 防藻性
- 高耐候性
- 下地適応性



ユニシリーズ

建築塗料の総合メーカー



スズカファイブ株式会社

# ユニシリーズ

セラミック配合

## 水性ウレタンユニ

## 水性シリコンユニ

屋内用塗料における有害化学物質への法規制強化および健康・環境への配慮などがすすむ中、鉄部塗装、外部塗装においても、従来の溶剤系塗料に代わり、水系塗料へと移っています。高耐候性のウレタンおよびアクリルシリコンの反応硬化樹脂をベースに、さらに低VOC化を図り、多用途に使用できる新品質の塗料「ユニシリーズ」を完成しました。水性で、最高の塗膜性能を極めた、次世代の環境対応形ユニバーサルペイントです。

### 特長

#### ●高い安全性

- ・日本塗料工業会の「健康リスクに対する目標基準」のTVOC(全揮発性有機化合物)1%未満で、極めて低臭化設計です。
- ・シックハウス症候群の原因とされる有害な物質(ホルムアルデヒド・環境ホルモンなど)を一切含んでいません。

#### ●高性能

- ・反応硬化樹脂の塗膜は強靱で、高耐候性を発揮します。
- ・JIS K 5660 つや有合成樹脂エマルジョンペイント適合品で高い塗膜性能を有します。

#### ●低汚染性・透湿性

- ・塗膜の親水機能は、汚染物質を洗い流す効果がありますので、汚れを低減します。
- ・透湿性があり、結露を防ぎます。

#### ●防藻性・防かび性

- ・微生物(藻・かびなど)の繁殖を防ぎ美観を保ちます。

#### ●下地適応性

- ・外壁、鉄部、木部などと幅広く使用できます。
- ・既存塗膜が合成樹脂調合ペイント、フタル酸エナメル、アクリル樹脂エナメルなどの場合、直接塗装可能です。

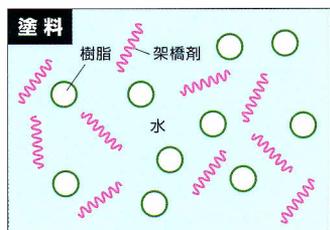
#### ●美しい仕上がり

- ・高いとまりで、きめの細かい滑らかな肌と高光沢が得られます。

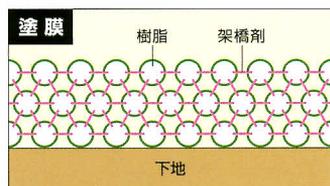
#### ●作業性

- ・1液水性ですから、取り扱いやすく、安全で環境にやさしく、はけ塗り、ローラー塗り適性に優れます。

### 反応硬化機能



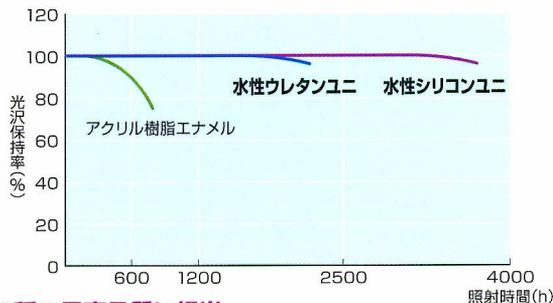
水の蒸発



水の蒸発時に樹脂間で架橋反応が起こり、強固な塗膜を形成。

### 促進耐候性試験結果

キセノンランプ法



#### ●耐候形1種の最高品質に相当

#### ●水性シリコンユニ

#### ●汎用タイプよりワンランクグレードアップした耐候形2種の最高品質に相当

#### ●水性ウレタンユニ

JIS A 6909建築用仕上塗材耐候性B法では、耐候性能を次のように分類しています。

- 耐候形1種** キセノンランプ法により、照射時間2500時間で塗膜の外観に問題が無く、光沢保持率80%以上、変色の程度がグレースケール3号以上、白亜化の等級が1以下
- 耐候形2種** キセノンランプ法により、照射時間1200時間で塗膜の外観に問題が無く、光沢保持率80%以上、変色の程度がグレースケール3号以上、白亜化の等級が1以下
- 耐候形3種** キセノンランプ法により、照射時間600時間で塗膜の外観に問題が無く、光沢保持率80%以上、変色の程度がグレースケール3号以上、白亜化の等級が1以下

### 商品体系

商品名	色相	容量
水性ウレタンユニ 水性シリコンユニ	白・黒・赤・赤さび色・オーカー色・黄色・紺 調色品[淡彩色 中彩色 濃彩色]	16kg 3kg(原色のみ)
水性ウレタンユニ7分つや 水性シリコンユニ7分つや	白 調色品[淡彩色 中彩色 濃彩色]	16kg
水性ウレタンユニ5分つや 水性シリコンユニ5分つや	白 調色品[淡彩色 中彩色 濃彩色]	16kg
水性ウレタンユニ3分つや 水性シリコンユニ3分つや	白 調色品[淡彩色 中彩色 濃彩色]	16kg

\*7分つや、5分つや、3分つやは、JIS K 5660 つや有合成樹脂エマルジョンペイント適合外です。

### 塗装適用範囲

#### 適用部位

- ・建築物(内外部用)
- ・鋼構造物

#### 適用素地

- ・セメント系素材  
コンクリート・モルタル・スレート・PC部材  
ALC/パネル・窯業系サイディングなど
- ・金属系素材  
鋼板・鋼材・アルミ・ステンレス  
金属系サイディングなど



↑ A002



↑ A005



↑ A009



↑ A010



↑ A455



↑ A401



↑ A201



↑ A303



↑ A417



↑ A204



↑ A419



↑ A428



↑ A001



↑ A602



↑ A607



↑ A420



↑ A411



↑ A320



↑ A322



↑ A370



↑ A350



↑ A358



↑ A359



↑ A305



↑ A500



↑ A403



↑ A470



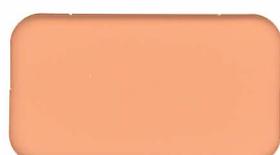
↑ A471



↑ A352



↑ A271



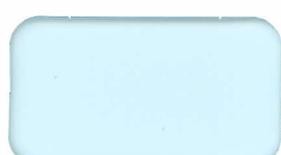
↑ A272



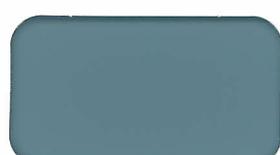
↑ A273



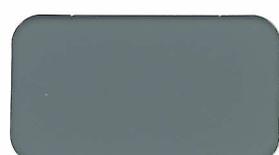
↑ A013



↑ A650



↑ A652



↑ A020



↑ A260



↑ A261



↑ A263



↑ A021

お願い

- 色見本は、紙に塗装していますので、実際の仕上がりと、色・つやが多少異なります。ご了承ください。
- 色によっては材料費が割高になるものや調色扱いとなるものがありますのでご了承ください。
- 広い面積に塗装した場合、実際の色が見本帳の色よりも多少明るく見える場合があります。

# 塗り替え仕様

## 素地調整・下塗り

### コンクリート・モルタル・窯業系サイディングボードなどの外壁

………(既存塗膜…リシン・吹付タイル・スタッコ・EP・AEP)

#### ①既存塗膜のテクスチャーを活かす場合

工程	塗料	割合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
1 素地調整	●チョーキング・汚れ・じんあい・劣化塗膜などを高圧水洗で除去する。 ●水洗い面を十分に乾燥させる。					

□既存塗膜の劣化が著しい場合や吸い込みムラがある場合は、下塗りとしてサンプラ・カチオンシーラー・EPOなど塗膜してください。

#### ②既存塗膜のテクスチャーを変える場合

工程	塗料	割合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1 下地調整	●既存塗膜の浮き・ふくれ・ぜい弱部などはサンダー・皮スキなどを用いて除去する。 ●チョーキング・汚れ・じんあい・劣化塗膜などを高圧水洗で除去する。 ●水洗い面を十分に乾燥させる。 ●既存塗膜の段差を同一模様になる塗材で復元する。					
2 下塗り	リメークプラ 清水	100 1~3	0.8~1.5	1	8時間以上	パターンローラー塗り

## 木部

工程	塗料	割合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
1 素地調整	●既存塗膜の劣化部分をスクレーパー、研磨紙などを用いて除去する。 ●汚れ・付着物は、木部を傷つけないように除去し、油脂類は溶剤がきで除去する。					

□既存塗膜が剥離し、下地が露出している場合には、下塗りとしてドライキットを塗装してください。

## 樋 (硬質塩ビ)

工程	塗料	割合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
1 素地調整	●サンドペーパーなどを用いて目粗しをする。 ●汚れ・付着物・油脂類を溶剤がきなどにより除去する。					

## 鉄部及び金属部 (鉄・亜鉛鉄板・アルミニウム・ステンレス)

………(既存塗膜…SOP・フタル酸樹脂・塩化ビニル樹脂・アクリル樹脂)

工程	塗料	割合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
1 素地調整	●ディスクサンダーなどの電動工具を主体とし、スクレーパー・ワイヤブラシ・研磨布・皮すきなどの手工具を併用して、さび・劣化塗膜などを除去する。 ●油脂類は溶剤がきで除去する。					
2 下塗り さび止め塗り	水性ラズノンEPO 清水	100 0~5	0.11~0.15	1~2	4時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り

□鉄部の露出が少なく、既存塗膜を活膜として存続できる場合は、下塗りを省略できます。  
下塗りは水性ラズノンEPOの代わりに溶剤系さび止め塗料のエポマイルド・エポブラ・さびストップなども使用できます。

## 上塗り

工程	塗料	割合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
2 3 上塗り	水性ウレタンユニ 清水	100 5~15	0.12~0.20	2	3時間以上 (最終養生 24時間以上)	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り

または

工程	塗料	割合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
2 3 上塗り	水性シリコンユニ 清水	100 5~15	0.12~0.20	2	3時間以上 (最終養生 24時間以上)	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り

※JIS K5660つや有合成樹脂エマルジョンペイントに適合する下塗りは、JIS K5663合成樹脂エマルジョンシーラーになります。

## ■塗装上の注意事項

- 素地は十分に乾燥させてください。(含水率10%以下、pH10以下)
- 素地の亀裂、クラック、不陸、目違いなどは、予め樹脂モルタルまたはラフトンファイラーなどで補修し、平滑にしてください。
- 気温5℃以下、湿度85%以上及び結露が懸念される場合は、塗装を避けてください。
- 強風時や降雨・降雪のおそれのある場合は塗装を避けてください。
- 吹付塗装の場合は、飛散防止の養生など十分に注意してください。
- 使用前に十分かくはんし、均一にしてから塗してください。
- うすめずは、たるみ、隠れ不足、つや不良などを生じますので注意してください。
- たれ、塗り残しなどがないように均一に塗してください。
- 仕様の各数値は、標準的な数値です。素地の形状や状態、塗装方法・環境などによって増減することがあります。
- 各工程の塗装間隔及び最終養生は所定の時間を厳守してください。
- シーリング材へ直接塗装すると硬化不良を起こします。また塗膜に割れ、剥がれ、汚れを生じることがあるため、塗装は行わないでください。やむをえず塗装を行う場合は、必ずシーリング材が十分に硬化していることを確認の上、予めラフトン逆プライマーを塗装してください。(ポリサルファイド系シーリング材の場合は2回塗りしてください。シリコン系及びブチルゴム系シーリング材へは、塗装を避けてください。)
- シャッター・歩行部位への使用は避けてください。
- 塗装面とプラスチックなど可撓性を含むものとが接触する箇所には塗装しないでください。
- ベンチ・ジャングルジムなどが乗るもの、またテーブル・カウンター・棚などを置くものへの塗装は避けてください。
- 補修塗りは、使用した塗料(同一ロット)を用いて、同じ塗装方法で行ってください。
- この見本帳に記載以外の下地や仕様で塗装される場合は塗膜欠陥を起こすことがありますので、使用する前に最寄りの営業所にお問い合わせください。

注) ①建物の構造、塗装部位(雨のかかりが少ない面、汚れが多量に集まる面など)によっては、低汚染効果が発揮されないことがありますのでご了承ください。

②各製品の容器には、取扱い上の注意事項などを記載していますので、必ずお読み頂き、正しく安全にご使用ください。  
また、製品の詳細な内容が必要な時には、安全データシート(SDS)をご参照ください。



営業本部 ☎ 510-0101 三重県四日市市柿町小倉1058-4 ☎ 059-397-2187 FAX 059-397-6191  
 研究開発本部 ☎ 510-0851 三重県四日市市塩浜町1 ☎ 059-346-1116 FAX 059-346-4585

札幌支店 ☎ 0133-60-6311 東京支店 ☎ 03-5661-2211 名古屋支店 ☎ 052-411-1255  
 大阪支店 ☎ 072-862-1601 広島支店 ☎ 082-277-1116 四国支店 ☎ 0877-24-4621  
 九州支店 ☎ 092-938-0071

# 新設仕様

## 素地調整・下塗り・主材塗り

### 外壁(コンクリート・モルタル・PC部材・ALGパネル・窯業系サイディングボード)

#### ①平滑仕上げ

工程	塗料	割合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
1 素地調整	●素地は、十分に乾燥させる。(含水率10%以下、pH10以下) ●素地のレイタンス・エフロレッセンス・汚れは除去し、巣穴・不陸・目違いなどは予めラフトンファイラーなどの仕上塗材用下地調整塗材にて補修する。					
2 下塗り	ラフトンEMシーラー 清水	100 10~30	0.07~0.11	1	2時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り

#### ②復層仕上塗材

工程	塗料	割合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1 下地調整	●下地は、十分に乾燥させる。(含水率10%以下、pH10以下) ●下地のレイタンス・エフロレッセンス・汚れは除去し、巣穴・不陸・目違いなどは予めラフトンファイラーなどの仕上塗材用下地調整塗材にて補修する。					
2 下塗り	サンプラ 清水	100 0~5	0.07~0.11	1	3時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3 主材塗り	ラフトンジャンボ 清水	100 0~3	1.4~1.6	1	16時間以上	ラフトン3号ガン 口径6.5~8.0mm 吹付圧0.3~0.6MPa

□主材にはラフトンジャンボRE、ラフトンシリカジャンボ、ラフトンローラーも使用可能です。  
注) 上記①-②の下塗りにサンプラホワイト・カチオンシーラー・EPOなども使用できます。

## 木部

工程	塗料	割合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
1 素地調整	●オービタルサンダー(研磨紙p180~240)などを用い、かん目、逆目、毛羽を除去し、平滑にする。 ●汚れ・じんあいはふき取り、ヤニ・油脂類は溶剤がきで除去する。					
2 下塗り	ドライキット 清水	100 5~15	0.16~0.20	1~2	3時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り

## 鉄部及び金属部 (鉄・亜鉛鉄板・アルミニウム・ステンレス)

工程	塗料	割合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
1 素地調整	●ディスクサンダーなどの電動工具を主体とし、スクレーパー・ワイヤブラシ・研磨布・皮すきなどの手工具を併用して、さび・黒皮・じんあい、汚れなどを除去する。 ●油脂類は溶剤がきで除去する。					
2 下塗り	水性ラズノンEPO 清水	100 0~5	0.11~0.15	1~2	4時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り

□塩化ビニル被覆鋼板の場合は、下塗りにリフンを2回塗りしてください。  
下塗りは水性ラズノンEPOの代わりに溶剤系さび止め塗料のエポマイルド・エポブラ・さびストップなども使用できます。

## 上塗り

工程	塗料	割合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
3 4 上塗り	水性ウレタンユニ 清水	100 5~15	0.12~0.20	2	3時間以上 (最終養生 24時間以上)	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り

または

工程	塗料	割合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
3 4 上塗り	水性シリコンユニ 清水	100 5~15	0.12~0.20	2	3時間以上 (最終養生 24時間以上)	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り

## ■取扱い上の注意事項

- 取扱い中は、皮膚に触れないようにし、必要に応じて下記の保護具を着用してください。  
防護マスク・顔巾・保護メガネ・長袖の作業衣・えり巻きタオル・保護手袋・前掛けなど
- 容器から取り出す時に、こぼれないようにしてください。  
もしこぼれた場合には、布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 皮膚に付着した場合には、直ちに多量の石けん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときは、医師の診察を受けてください。
- 蒸気・臭いなどを吸い込んで気分が悪くなった時には、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診察を受けてください。
- 目に入った場合には、直ちに多量の流水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師の診察を受けてください。
- 取扱い後は、手洗い・うがい・鼻孔洗浄を十分に行ってください。
- 容器は密栓し、40℃以下で子供の手の届かない一定の場所を定めて保管してください。特に下記の場所の保管は避けてください。  
雨水や直射日光の当たる場所・高温多湿の場所・潮風の当たる場所・凍結の恐れのある場所など
- 捨てるときは、産業廃棄物として処分してください。
- ※エポマイルド、エポブラ、さびストップなどの溶剤系塗料を使用する時は、上記の注意事項に合わせて下記事項に注意してください。
- 引火性の液体ですので、火気のあるところでは使用しないでください。
- 吸入すると有機溶剤中毒を起こす恐れがありますから、換気をよくし、蒸気・スプレーミストを吸い込まないよう必ず保護具を着用してください。
- 取扱い作業場所には、局所排気装置を設けてください。
- 取扱い中は皮膚に触れないようにし、必要に応じて下記の保護具を着用してください。  
有毒ガス防護マスクまたは送気マスク・顔巾・保護メガネ・長袖の作業衣・えり巻きタオル・保護手袋・前掛けなど
- 臭い・食料品・飲食物・衣類などに、うつる場合がありますので、作業場所から遠ざかる、または養生するなど、十分に注意してください。
- 容器から取り出す時には、こぼれないように注意してください。  
もしこぼれた場合には、布で拭き取って、水の入った容器に保管してください。
- 火災時には炭酸ガス消火器、泡消火器、または粉末消火器を用い初期消火をしてください。